

令和5年4月13日
於 四季の森公園

遊楽舎 春の草花・樹木観察会

No	草花・樹木	科	観察の見どころ・説明のポイント	メモ
1	ウワミズザクラ	バラ科	枝の先端にブラシのような花を咲かせる。	
2	ヤブレガサ	キク科	芽が出始めの頃の姿が破れ番傘のように見えたところからの名前	
3	クサイチゴ	バラ科	キイチゴの仲間 茎が草のように這うので。	
4	サンショウ	ミカン科	香辛料、薬用にも利用されている。雌雄異株。刺が対生。	サンショウ 生
5	ナツトウダイ	トウダイグサ科	春咲きだが夏の名前が付く。草姿が照明の燈台に似ていること。	
6	シャガ	アヤメ科	湿った日陰に群生する多年草。3倍体植物で種はできない。	
7	オオバコ	オオバコ科	踏みつけられても強い道ばたの雑草。花茎で勝ち負けをする遊び	
8	ヒメコウゾ	クワ科	雌雄同株。新枝の上部に雌花、株に雄花がつく。果実はまずい。	
9	アオキ	ミズキ科	枝が青いのでの名前。雌雄異株。日本固有種。	
10	コナラ	ブナ科	芽吹きの新緑が美しい。雄花は垂下がり雌花は新枝の上部につく	
11	キブシ	キブシ科	お歯黒の材料。雌雄異株。花は簪のように垂れ下がる。	
12	ニワトコ	スイズラ科	薬用植物。若い芽は山菜として食用。蕾は花と葉が一緒。	
13	エゴノキ	エゴノキ科	樹皮は黒く滑らか。花を沢山つける。果実にはサポニンがある。	
14	ミツバツチグリ	バラ科	葉は3小葉で、春に黄色の5弁の花をたくさんつける。	
15	ウラシマソウ	サトイモ科	雄株と雌株がある。若いときは雄株成熟すると雌株になる。	
16	ツバキモンソウ	シソ科	葉脈と葉裏が紫色なのが特徴。見た目、錦の衣をまとったようだ	
17	ミツバウツギ	ミツバウツギ科	葉は3小葉で春に白い花をつける。	
18	ハウチャクソウ	ユリ科	寺院や仏塔の軒に吊り下げる飾り（宝鐸）に似ている花形。	
19	ミツマタ	ジソウゲ科	枝が三叉、三叉と分枝していく。和紙（紙幣）の原料。	
20	ハナイカダ	ミズキ科	花の咲く様子が筏に乗ったように見えた。	
21	ムラサキコケ	ゴマノハグサ科	匍匐枝をだして広がっていく多年草。	

秋の草花・樹木観察

チエツク	草花・樹木	観察の見どころ
	アキニレ	翼果で種子は翼の中央にあり風によって運ばれる。
	ツリフネソウ	湿気のあるところに生え、花がぶら下がった船に似ているのでその名がある。種ははじけて飛ぶ。
	ミゾソバ	湿気のあるところに生え、金平糖のような花と葉が牛の顔のような独特な形をしている。
	アサカセンダングサ	くっつき虫。頭花の周辺に緑色の包葉が特徴。よく似ているコセンダングサには包葉がない。
	セイヤカアワダチソウ	荒地に群生する多年草。草丈が高く、黄色の花が泡立つように見える。
	イノコズチ	くっつき虫。実が獣にくっつける様子の子連れ猪ににている
	シュウメイギク	中国より修行僧が持ち帰る。黄泉の国の花「秋冥菊」であったが「冥」を「明」に。花に総包がない。 <small>トクマ</small>
	ミズヒキ	小さな花が、長い穂状につく。上から見ると赤く下から見ると白く見える。
	イヌタデ	ままごと遊びのご飯として活用。タデの意味は口がただれるほどの辛さを表す。イヌは否を表す。
	チカラシバ	芝を大形にしたような草。葉を掴み抜こうとしてもビクともしないことからの名前。チカラシバの先端を縛り後からくるものを転ばせる遊び
	ミツバウツギ	葉が3枚。果実は平たい風船状になる <small>フクレー(実)</small>
	シャクチリソバ	中国から明治頃、薬用として渡来。食用にはならない。草丈高い
	キンミズヒキ	タデ科のミズヒキに花のつきかたが似ていて、花が黄色なのでその名がついた。
	ヌスビトハギ	くっつき虫。昔の盗人は抜き足差し足忍び足で足袋をはいて歩きその足跡と2つにくびれた実が似ている。
	アキノノゲシ	春に咲くノゲシに似ていて秋に花をつける。
	ガマズミ	食用になる。たくさんの実をつけ、赤く輝いているところに秋を感じる。
	ヤシャブシ	お歯黒の材料。実がクラフトの良い材料
	キブシ	秋の初旬頃から来年の花芽をつける。お歯黒の材料。
	オニドコロ	ヤマノイモに似ているが、塊茎は苦味が強く食用にはならない。実を鼻の頭につけた遊びがある。
	トリカブト	雅楽の奏者が頭につける冠を鳥兜という。花の形が似ているのでついた。
	ヤブタバコ	藪に生え、茎につく花は煙管の雁首に似ている。葉はタバコの葉に似る。
	ヤクシソウ	薬師の名前がありながら、薬効はない。晩秋の花